図 15　Abusive head trauma 予防のための啓発リーフレット

11）児童相談所・地域保健センター・警察への通告に際して（院内要保護マニュアル 17・50 頁）

2）に前述した通り，虐待を疑った場合，医療者は関係機関への通告が求められる．通告先は症例の重症度・深刻度により保健センター～児相～警察と多様で，その判別についてはマニュアルを参照されたい．児相通告に際して留意点は，①通告自体に保護者了解は必要ないものの，病院として通告する義務があることを保護者に説明した上で通告すること，②虐待を客観的事実として証明する必要はなく，“けがの原因が親の説明で納得できない”だけで十分であること，③最低限の情報は患児氏名・年齢・住所である．365 日 24 時間体制で受け付けられ，通告内容・経路については厳重に機密保護される．児相に通告するほどでない場合には所轄保健センターの保健師と情報共有し，フィールドでの見守りをお願いすることは有益である．

12）虐待の危機対応から予防的対応へ（院内要保護マニュアル 64 頁）

医療機関によるこれまでの虐待対応は，医学的所見を呈するに到った症例の保護・支援という，いわば危機対応がメインであった．しかし，これからは虐待予備群・育児不安群なども対象とした予防的対応も重要と言える（図 14）[4]．当院でも産科外来・産科病棟を中心に，一定の書式で気がかり母子をピックアップし，地区保健師と情報共有する症例が年々増加している（図 1）．また乳児期に虐待と判断された症例の多くが産院から実家へ退院した後に，夫婦と子どもだけの生活に移行して間もなく発生していたことより，このタイミングで保育師訪問するようお願いしている．また AHT 予防のためのリーフレットを作成し，乳幼児健診などで活用している（図 15）．周産期センターを要する当院では，こういった一次・二次予防も重要な役割のひとつといえる．

13）要保護児童から要支援児童へ

要保護児童とは被虐待児を含め保護者に監護させることが不適当であると認められる児童を指すが，これ以外で衣食住等について不適切な養育環境にあり，支援が必要と認められる場合，要支援児童と定義される（児童福祉法）．例えば，保護者の様々な事情で義務教育の機会が失われている児童は少なからず経験される．こういった症例に対して，学校・教育委員会・行政・学校併設型の病院と連携して教育機会を提供することも意義深いことと言える（図 16）[5]．

年/性	① 13ｙ/F	② 15ｙ/F	③ 13ｙ/F	④13y/F
児 既往	過敏性腸症候群	T2DM	なし	なし
入院 契機	腹痛 ⇒QQ搬送	DM コントロール	身体/心理的虐待 祖母への暴力	自殺企図 腰椎/仙椎骨折
不登校歴 Grade	中１/2学期～ 6	中2/3学期～ 5	中１/2学期～ １～２	中1/1学期～ ２
家庭 環境	母子家庭 母：妄想性障害 児：拒否的感情	母子家庭 母/姉：鬱 ゴミ屋敷状態	母子家庭 震災避難 虐待世代連鎖 母：パニック障害 児：拒否的感情	父子家庭 親権/居住環境 転々 児：拒否的感情
入院後	症状消失 院内学級/課題 積極的参加	A1c著明改善 9.8⇒5.9%	祖母送迎にて 市内中学登校 母児衝突反復	児相/教育委員会 継続協議 専任Ns固定 日々声かけ
入院期間	1ヶ月	6ヶ月	４ヶ月～	3ヶ月
転帰	T病院/支援級 転院/転校 登校再開 母 精神科通院	病院より登校 県立高校合格 ⇒退院 福祉支援継続	key person 祖母 外来通院継続 ⇒ 高校進学	T病院転院 併設中学転向 ⇒高専進学

図 16　入院支援した要保護 / 支援家庭の不登校中学生 4 症例の疾患・家庭背景

14）性虐待（院内要保護マニュアル 72・73 頁）

県内でも年間 10 件前後の性虐待（疑い）の通告がある．当院でも幼児の性器出血や膣内異物症例が経験されている．外性器診察は重要だが，所見は一過性で速やかに軽快することが多い．疑わしい場合には産科医による診察と写真記録が重要である．性虐待如何を最終判断するため、性虐待に見識の深い医師（院内・院外を問わず）に相談することも一度ならず経験された．そのためにも急性期の客観的な外性器記録は必須と言える．また，ある種の起因菌（淋菌・クラミジア等）による性感染症では性虐待の鑑別が必須であることは言うまでもない．

おわりに

虐待対応において医療従事者の役割は，①虐待 / 不適切養育を見逃がさず，②不適切な環境から子どもを保護し，③地域連携 / 社会資源を活用して家族支援へ繋げることである．医療者だから出来る気付き / 支援を大切に，要保護 / 要支援児童に対して意識のスイッチをお願いしたい．

本稿の内容に開示すべき利益相反はない．

文　献

1）メアリ・エレン・ウイルソン事件
http://ja.wikipedia.org/wiki/ メアリ・エレン・ウイルソン事件（2022 年 2 月現在）

2）子ども虐待対応医師のための子ども虐待対応・医学診断ガイド　厚生労働省科研費子ども家庭総合研究事業製作

3）横井広道，他　肋骨骨折 6 例の検討　第 25 回子ども虐待防止学会ひょうご大会　抄録集　O-29　2019 年

4）山田不二子，五十嵐登，他　医療者が虐待に向きあうということ　子どもの虐待とネグレクト　2021；23（2）：160-174

5）五十嵐登，柿沢有希子，松井弘美　要支援・要保護家庭中学生不登校児の急性期病院による入院支援　第 12 回日本子ども虐待医学会学術集会　抄録集　5-3　2021 年

6）東京都社会保健局 HP より　児童虐待の実態　－東京の児童相談所の実態に見る－　moj.go.jp/content/000012466.pdf　平成 13 年 10 月